

第1章 豆類の需給と流通事情

I. 全国の豆類作付面積と生産量

(単位：ha・俵・%)

区分 年産	全 国 合 計		北 海 道 合 計		全国に占める北海道の比率
	作付面積	生 産 量	作付面積	生 産 量	作付面積
17	183,759	5,516,600	59,559	2,443,300	32
18	184,732	5,203,300	60,212	2,401,600	33
19	181,888	5,236,600	56,338	2,208,300	31
20	190,533	5,925,000	57,783	2,358,400	30
21	188,692	4,976,700	58,592	1,831,600	31
22	180,362	4,999,000	58,762	2,120,000	33
23	177,799	4,811,200	59,829	2,052,300	34
24	171,885	5,368,400	60,905	2,470,000	35
25	170,523	4,720,000	61,683	2,345,000	36
26	173,278	5,485,000	63,858	2,756,700	37
27	179,967	5,538,400	65,817	2,836,700	37
28	180,326	4,552,600	64,806	1,949,700	36
29	180,553	5,388,400	66,033	2,778,300	37
30	178,108	4,386,100	66,448	2,178,800	37
元	176,209	4,838,300	66,689	2,608,300	38
2	175,936	4,595,300	68,146	2,841,100	39
3	176,849	4,931,600	67,879	2,785,700	38
4	181,275	4,890,600	68,335	2,938,200	38
5	185,651	4,948,000	72,031	3,136,600	39
6	183,988		73,718		40

※3年産以降の北海道の生産量はホクレン推算。それ以外は統計情報事務所発表値。

※えん豆の生産量は除く。

(単位：ha・俵)

区分 年度	大 豆						小 豆					
	全 国 作付面積	反収	全 国 生 産 量	北 海 道 作付面積	反収	北 海 道 生 産 量	全 国 作付面積	反収	全 国 生 産 量	北 海 道 作付面積	反収	北 海 道 生 産 量
17	134,000	2.82	3,773,300	21,100	4.13	873,300	38,300	3.43	1,315,000	28,200	4.12	1,160,000
18	142,100	2.69	3,820,000	28,100	4.15	1,168,300	32,200	3.30	1,065,000	22,800	4.10	933,300
19	138,300	2.73	3,778,300	22,700	3.93	893,300	32,700	3.35	1,093,300	23,800	4.07	968,300
20	147,100	2.97	4,361,700	24,000	3.95	946,700	32,100	3.60	1,155,000	23,400	4.37	1,021,700
21	145,400	2.63	3,831,700	24,500	3.30	808,300	31,700	2.78	880,000	23,500	3.30	775,000
22	137,700	2.69	3,708,300	24,400	3.95	963,300	30,700	2.98	915,000	23,200	3.50	811,700
23	136,700	2.67	3,646,700	26,400	3.78	998,300	30,600	3.27	1,000,000	23,800	3.78	900,000
24	131,100	3.00	3,931,700	27,200	4.17	1,133,300	30,700	3.70	1,136,700	24,400	4.30	1,050,000
25	128,800	2.58	3,331,700	26,800	3.82	1,040,000	32,300	3.52	1,133,300	26,200	4.05	1,061,700
26	131,600	2.93	3,863,300	28,600	4.28	1,226,700	32,000	4.00	1,280,000	26,300	4.57	1,201,700
27	142,000	2.85	4,051,700	33,900	4.22	1,431,700	27,300	3.88	1,061,700	21,900	4.53	991,700
28	150,000	2.65	3,966,700	40,200	3.50	1,406,700	21,300	2.30	491,700	16,200	2.78	451,700
29	150,200	2.80	4,216,700	41,000	4.08	1,675,000	22,700	3.92	890,000	17,900	4.63	830,000
30	146,600	2.40	3,521,700	40,100	3.42	1,371,700	23,700	2.96	701,700	19,100	3.42	653,300
元	143,500	2.53	3,630,000	39,100	3.77	1,473,300	25,500	3.86	985,000	20,900	4.42	923,300
2	141,700	2.57	3,648,300	38,900	3.98	1,550,000	26,600	3.25	865,000	22,100	4.61	1,019,300
3	146,200	2.81	4,108,300	42,000	4.18	1,756,700	23,300	3.02	703,300	19,000	4.39	834,800
4	151,600	2.67	4,046,700	43,200	4.43	1,914,000	23,200	3.02	701,700	19,100	4.35	831,000
5	154,700	2.81	4,346,700	45,400	4.66	2,115,400	24,800	2.08	515,000	20,900	3.97	829,700
6	154,100			46,965			23,900			21,086		

※小豆類の3年産以降の北海道の反収、生産量はホクレン推算。それ以外は統計情報事務所発表値。

(単位：ha・俵)

区分 年度	い ん げ ん						え ん 豆					
	全 国 作付面積	反収	全 国 生 産 量	北 海 道 作付面積	反収	北 海 道 生 産 量	全 国 作付面積	反収	全 国 生 産 量	北 海 道 作付面積	反収	北 海 道 生 産 量
17	11,200	3.82	428,300	10,000	4.10	410,000	259	-	-	259	-	-
18	10,000	3.18	318,300	8,880	3.38	300,000	432	-	-	432	-	-
19	10,400	3.52	365,000	9,350	3.70	346,700	488	-	-	488	-	-
20	10,900	3.75	408,300	9,950	3.92	390,000	433	-	-	433	-	-
21	11,200	2.37	265,000	10,200	2.43	248,300	392	-	-	392	-	-
22	11,600	3.17	366,700	10,800	3.20	345,000	362	-	-	362	-	-
23	10,200	1.61	164,500	9,330	1.65	154,000	299	-	-	299	-	-
24	9,650	3.12	300,000	8,870	3.23	286,700	435	-	-	435	-	-
25	9,120	2.80	255,000	8,380	2.90	243,300	303	-	-	303	-	-
26	9,260	3.68	341,700	8,540	3.85	328,300	418	-	-	418	-	-
27	10,200	4.17	425,000	9,550	4.33	413,300	467	-	-	467	-	-
28	8,560	1.10	94,200	7,940	1.15	91,300	466	-	-	466	-	-
29	7,150	3.93	281,700	6,630	4.13	273,300	503	-	-	503	-	-
30	7,350	2.21	162,700	6,790	2.27	153,800	458	-	-	458	-	-
元	6,860	3.26	223,300	6,340	3.34	211,700	349	-	-	349	-	-
2	7,370	1.12	82,000	6,880	3.95	271,800	266	-	-	266	-	-
3	7,130	1.68	120,000	6,660	2.92	194,200	219	-	-	219	-	-
4	6,220	2.29	142,200	5,780	3.34	193,200	255	-	-	255	-	-
5	5,870	1.47	86,300	5,450	3.51	191,500	281	-	-	281	-	-
6	5,710			5,389			278			278		

※ 3年産以降の北海道の反収・生産量はホクレン推算。それ以外は統計情報事務所発表値。

II. 豆類消費実績

輸入を含めた雑豆類の消費については平成 27 雑豆年度では 2,230 千俵であったが、令和 6 雑豆年度においては 2,080 千俵と減少している。内訳としては平成 27 雑豆年度から令和 6 雑豆年度で小豆類は微増しているが、生産量の減少しているいんげん類についてはそれぞれ減少となった。

1. 小豆類

道産小豆類については令和 2 雑豆年度を消費の底とし、新型コロナウイルスの落ち着きとともに人流が増加し土産物需要などの需要回復とともに消費量が増加したが、令和 5 年産の高温を起因とする不作から供給量が限られていたため、需要に対し満度な供給が出来なかったことから 806 千俵（前年比 92%）と消費が減少した。

2. いんげん類

大手亡・金時については、小豆類同様供給量の減少や生産量による価格の上昇から、大手亡については 49 千俵（前年比 84%）、金時については 119 千俵（前年比 93%）と共に消費を落としている。

雑豆類の消費実績

(単位：千俵)

豆年度	500	1,000	1,500	2,000	2,500	3,000	3,500	計
27年	小豆1,200		手亡420	菜豆350	えん豆260			2,230
28年	小豆1,250		手亡490	菜豆340	えん豆250			2,330
29年	小豆1,330		手亡510	菜豆320	えん豆280			2,440
30年	小豆1,200		手亡490	菜豆280	えん豆290			2,260
元年	小豆1,220		手亡470	菜豆310	えん豆280			2,280
2年	小豆1,120		手亡370	菜豆280	えん豆300			2,070
3年	小豆1,150		手亡350	菜豆320	えん豆250			2,070
4年	小豆1,290		手亡350	菜豆280	えん豆250			2,170
5年	小豆1,320		手亡350	菜豆290	えん豆220			2,180
6年	小豆1,250		手亡330	菜豆270	えん豆230			2,080

※ 雑豆年度：前年10月～9月

道産豆類の消費実績

(単位：千俵)

豆年度	500	1,000	1,500	2,000	2,500	計
27年	小豆865	手亡81	金時170	他43	大豆1,111	2,270
28年	小豆950	手亡81	金時178	他40	大豆1,218	2,467
29年	小豆948	手亡91	金時164	他33	大豆1,332	2,568
30年	小豆861	手亡72	金時133	他4	大豆1,343	2,438
元年	小豆770	手亡71	金時147	他4	大豆1,593	2,606
2年	小豆676	手亡48	金時123	他4	大豆1,474	2,347
3年	小豆752	手亡57	金時135	他4	大豆1,528	2,495
4年	小豆864	手亡58	金時139	他4	大豆1,647	2,730
5年	小豆873	手亡58	金時128	他4	大豆1,599	2,680
6年	小豆806	手亡49	金時119	他19	大豆1,816	2,810

Ⅲ. 道産豆類の需給見込み

1. 雑 豆

(1) 小豆類

(単位：ha、俵、千俵)

年産	品 目	面 積	反 収	生産量	商品化数量	前年産繰越量	供給量計	年 間消費量	次 期繰越量	在庫量
6	大 納 言	1,884	3.7	69.8	66.3	26.0	92.3	55.7	36.6	7.9 カ月
	小 豆	19,202	4.5	857.6	814.7	507.7	1,322.4	764.3	558.1	8.8 カ月
	小豆類	21,086	4.4	927.4	881.0	533.7	1,414.7	820.0	594.7	8.7 カ月
7	大 納 言	1,800	3.6	64.3	61.1	36.6	97.7	61.1	36.6	7.2 カ月
	小 豆	20,300	4.4	897.3	852.4	558.1	1,410.5	838.9	571.6	8.2 カ月
	小豆類	22,100	4.4	961.6	913.5	594.7	1,508.2	900.0	608.2	8.1 カ月

※6年産大納言・小豆の面積はホクレン推算値。
 ※7年産作付面積は作付指標値。反収は過去7中5値。
 ※反収・生産量・商品化数量・年間消費量はホクレン推算値。

- ア. 小豆類の6年産作付状況については21,086ha（前年差+186ha）と増加し、収量は4.4俵/反と平年をやや上回る収量を確保した。
- イ. 5年産の気象経過による出回りの遅れや輸入との価格差、各種最終製品の値上げによる節約志向の高まりから消費を落としており、供給に見合った消費回復を目指すべく、6年産年間消費量については820千俵に設定し、次期繰越量は8.7カ月分となる。
- ウ. 消費の維持・増加には、北海道産小豆の安定供給体制が必要不可欠であることから、令和7年産の生産にあたっては、作付指標面積への拡大が必要である。
- エ. 今後については、指標面積への拡大とともに生産者から実需者までを結び付けた契約栽培の拡充を行い、生産量・需要・価格の安定化を図っていく。

(2) いんげん類・えん豆類

(単位：ha、俵、千俵)

年産	品 目	面 積	反 収	生産量	商品化数量	前年産繰越量	供給量計	年 間消費量	次 期繰越量	在庫量
6	大 手 亡	1,326	4.4	57.8	54.9	39.0	93.9	51.0	42.9	10.1 カ月
	赤系金時	3,735	3.1	116.4	110.5	115.8	226.3	121.7	104.6	10.3 カ月
7	大 手 亡	1,700	4.1	70.0	66.5	42.9	109.4	51.0	58.4	13.7 カ月
	赤系金時	4,500	3.2	143.1	135.9	104.6	240.5	121.7	118.8	11.7 カ月

※6年産作付面積は、ホクレン推算値。
 ※7年産作付面積は作付指標値。反収は過去7中5値。
 ※反収・生産量・商品化数量・年間消費量はホクレン推算値。

ア. 大手亡の6年産生産状況について、作付面積は1,326ha（前年差+56ha）と前年より増反し収量は4.4俵/反と平年をやや上回った。消費については土産物や菓子の需要が人流の増加により回復傾向にあったものの、5年産の不作から需給がひっ迫し、消費を落とした。消費の拡大には令和7年産の面積拡大が必要である。

イ. 赤系金時の6年産生産状況について、作付面積は3,735ha（前年差▲104ha）と前年と比較して減少したが、収量は3.1俵/反と平年並みであった。

収穫間際の天候により収量・品位が大きく変動するため、生産量の安定化を図るためにも面積の維持拡大が必要なことから7年産は指標面積に向けた取り組みが必要である。

2. 大 豆

(1) 普通大豆

項目	年産	6 年 産		5 年産実績		対 比	
	単位	全 国	うち北海道	全 国	うち北海道	全 国	うち北海道
作 付 面 積	(ha)	128,800	41,400	129,400	40,700	100%	102%
反 収	(kg)	178	303	178	282	100%	108%
生 産 量	(ト)	229,100	125,600	230,600	114,800	99%	109%

※全国・北海道の面積・反収は12月末現在系統見込。

ア. 6年産の全国の作柄は、作付面積が減少したものの、北海道産の収量が平年を上回る見込から、概ね横ばいの生産量229,100トン（前年比99%）を見込む。

主産地の北海道は、昨年同様高温にて推移したものの、夜温は下がり昼夜の寒暖差があるなか生育し、適度な降雨を得ながら順調に生育したことから、収量・品位は良好となっている。また、前年から面積が増加し、収量も前年を上回ったため生産量は125,600トン（前年比109%）を見込む。

イ. 販売面については、原料・各種資材の高騰を背景とした大豆加工品の値上げや食品ロス削減を目的とした量目の減少から販売は鈍化している。

ウ. 輸入大豆については、滞っていた海上輸送事情が回復に向かったことで国内流通在庫が過多となっており、国産大豆の販売が後ずれする要因となった。

エ. 6年産北海道産大豆において、輸入大豆の国産在庫が滞留しているものの、国産との価格差は縮小してきており、今後国産大豆の更なる安定化が見込まれることから需要の置き換えに向け推進を行っている。

(2) 黒大豆

(単位：ha、俵、千俵)

年産	品目	面積	反 収	生産量	商品化 数 量	前年産 繰越量	供給量計	年 間 消費量	次 期 繰越量	在庫量
6	黒大豆	2,359	4.1	97.4	92.3	58.4	150.7	97.9	52.8	6.5 カ月
7		3,000	3.7	111.6	106.0	52.8	158.8	100.0	58.8	7.1 カ月

※6年産作付面積は、ホクレン推算値。

※7年産作付面積は作付指標値。反収は過去の反収の7中5値。

※反収・生産量・商品化数量・年間消費量はホクレン推算。

- ア. 黒大豆の6年産生産状況について、面積は指標面積を下回る2,359ha（前年差+401ha）となり、収量は4.1俵/反と平年を上回ったものの、年間消費量を下回る商品化数量となった。
- イ. 6年産は全道的に小粒傾向で一部地域ではしわ粒が発生しており、実需者からは安定した品位での供給を求められることから、令和7年産の生産にあたっては、面積の拡大が必要である。

雑豆の通関実績

(1) 小豆

(単位：トン)

豆年度	10,000		20,000		30,000		40,000		50,000	
27年	中国 11,020	カナダ 8,070	—他 850		19,940					
28年	中国 8,350	カナダ 9,000	—他 450		17,800					
29年	中国 11,080	カナダ 10,940	—他 440		22,460					
30年	中国 11,550	カナダ 9,930	—他 760		22,240					
元年	中国 13,660	カナダ 15,330	—他 1,380		30,370					
2年	中国 13,040	カナダ 14,400	—他 530		27,970					
3年	中国 5,350	カナダ 14,060	—他 1,970		21,380					
4年	中国 11,200	カナダ 14,010	—他 1,380		26,590					
5年	中国 13,690	カナダ 15,030	—他 2,080		30,800					
6年	中国 10,110	カナダ 11,920	—他 3,860		25,890					

(2) いんげん

(単位：トン)

豆年度	10,000		20,000		30,000		40,000		50,000		60,000	
27年	米国 7,080	カナダ 6,850	ミャンマー 6,020	中国 3,550	—他 1,010		24,510					
28年	米国 5,470	カナダ 6,700	ミャンマー 9,630	中国 3,510	—他 1,230		26,540					
29年	米国 6,430	カナダ 6,810	ミャンマー 8,550	中国 3,320	—他 1,270		26,380					
30年	米国 7,350	カナダ 7,680	ミャンマー 8,130	中国 3,610	—他 1,010		27,780					
元年	米国 8,340	カナダ 8,130	ミャンマー 8,350	中国 2,980	—他 1,700		29,500					
2年	米国 5,510	カナダ 3,270	ミャンマー 6,420	中国 2,760	—他 1,660		24,640					
3年	米国 2,930	カナダ 7,390	ミャンマー 5,610	中国 2,390	—他 1,310		19,630					
4年	米国 4,090	カナダ 6,610	ミャンマー 7,320	中国 2,260	—他 2,980		23,260					
5年	米国 3,950	カナダ 8,050	ミャンマー 5,340	中国 1,920	—他 3,150		22,410					
6年	米国 3,120	カナダ 6,530	ミャンマー 5,240	中国 1,960	—他 2,680		19,530					

(3) えん豆

(単位：トン)

豆年度	10,000				20,000			
27年	カナダ 7,550	英国 2,820	米国 2,010	他 1,380	13,760			
28年	カナダ 6,390	英国 4,400	米国 2,670	他 1,670	15,130			
29年	カナダ 6,850	英国 3,940	米国 4,270	他 2,070	17,130			
30年	カナダ 5,690	英国 3,500	米国 4,410	他 3,280	16,880			
元年	カナダ 6,150	英国 4,080	米国 3,560	他 2,040	15,830			
2年	カナダ 8,730	英国 2,620	米国 4,860	他 2,510	18,720			
3年	カナダ 6,770	英国 2,400	米国 4,660	他 1,890	15,720			
4年	カナダ 6,900	英国 3,190	米国 2,500	他 2,180	14,770			
5年	カナダ 6,280	英国 1,870	米国 1,380	他 1,510	11,040			
6年	カナダ 7,180	英国 1,520	米国 2,380	他 1,900	12,980			

(4) そら豆

(単位：トン)

豆年度	5,000			10,000			
27年	中国	4,220	オーストラリア	1,000	他	220	5,440
28年	中国	3,810	オーストラリア	1,130	他	60	5,000
29年	中国	3,710	オーストラリア	950	他	130	4,790
30年	中国	3,410	オーストラリア	1,130	他	260	4,800
元年	中国	3,500	オーストラリア	1,030	他	290	4,820
2年	中国	2,770	オーストラリア	850	他	250	3,870
3年	中国	1,690	オーストラリア	700	他	140	2,530
4年	中国	2,250	オーストラリア	880	他	210	3,340
5年	中国	1,620	オーストラリア	1,310	他	270	3,200
6年	中国	1,150	オーストラリア	1,380	他	60	2,590

(5) 加糖アン

(単位：トン)

豆年度	20,000			30,000			40,000			50,000			60,000			70,000			80,000			90,000			100,000		
27年	中国	64,970						他	1,070						66,040												
28年	中国	62,730						他	1,180						63,910												
29年	中国	58,320						他	1,300						59,620												
30年	中国	57,980						他	1,560						59,540												
元年	中国	56,790						他	2,160						58,950												
2年	中国	54,030						他	2,420						56,450												
3年	中国	54,170						他	2,080						56,250												
4年	中国	41,970						他	1,340						43,310												
5年	中国	36,850						他	1,270						38,120												
6年	中国	37,550						他	260						37,810												